

男女共同参画委員会の15年と現在 そしてこれから

男女共同参画委員会委員長 三浦 永理*

まてりあ60巻発刊とのこと、おめでとうございます。その記念ということで、日本金属学会・日本鉄鋼協会男女共同参画委員会も本誌60巻7号に引き続き⁽¹⁾、再び委員会だよりに掲載の機会を頂きました。

さて、60巻7号の委員会だよりでもご案内致しました通り、2007年に発足の本委員会は2022年で15周年を迎えます。

本委員会のこれまでの歩みは、初期から本学会の男女共同参画活動に携わってこられた日本金属学会の元副会長の御手洗容子氏(東京大学)の記事⁽²⁾に詳しく書かれています。さわりを紹介しますと、本委員会の前身となる男女共同参画活動のためのワーキンググループ(WG)が2003年から始動し(初代委員長：黒田光太郎氏(当時名古屋大学))、啓発活動を目的とするシンポジウム開催や講演大会会期中の託児室の設置、男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー参加等が始まりました。その後、2007年に日本鉄鋼協会との合同にて本委員会を設置することとなり、これまでのWGの活動を引き継ぐと共に、「ランチョンミーティング」や「女性会員のつどい」の大会会期中の開催、また、女子中高生の理系進学を後押しする活動として、関東地区開催の「夏の学校」への参加、関西地区では「関西科学塾」に協力団体としての参加等の活動を行っています。2009年には委員会のロゴマークを策定し(図1)、講演会ははじめイベントの際に使用しています。

私自身は2011年から委員を拝命し、委員会の末席を汚しておりますが、最も思い出深いのは2017年の委員会10周年記念シンポジウムです。北海道大学工学部棟オープンホールにて、秋期講演大会の会期終了翌日9月9日(土)に開催されました(図2、3)。講師の依頼やチラシ作成から広報展開、当日の受付など、何ヶ月もかけて委員と学会事務局で準備を重ね、当日を迎えました。講演内容の詳細については当時の委員長の梅津理恵氏(東北大学)の報告⁽³⁾をご覧くださいと思いますが、「もっと広報を頑張れば良かった」と反省の弁が出るほどに、どの講演も素晴らしく、正副委員長と幹事委員、学会事務局、大会実行委員の皆様のご慧眼とご尽力に頭が下がる思いだったのを記憶しています。それから5年、来年は委員会設立15周年を記念してミニシンポジウムを企画しております。皆様是非ご参加下さい。

* 兵庫県立大学大学院工学研究科



図1 本委員会のロゴマーク(山崎壮氏デザイン)。(オンラインカラー)



図2 男女共同参画委員会10周年記念シンポジウムの準備中の様子。(2017年9月9日、北海道大学)(オンラインカラー)



図3 同上。男女共同参画委員会10周年記念シンポジウム講演中の様子。(同上)(オンラインカラー)

工学系学術団体の日本金属学会で男女共同参画やダイバーシティに取り組む必要性について、一つデータを示します。図4は、2017年の学会員の世代別会員比率です。左端の世代比率を見ると、50代がボリュームゾーン、40代がそれに

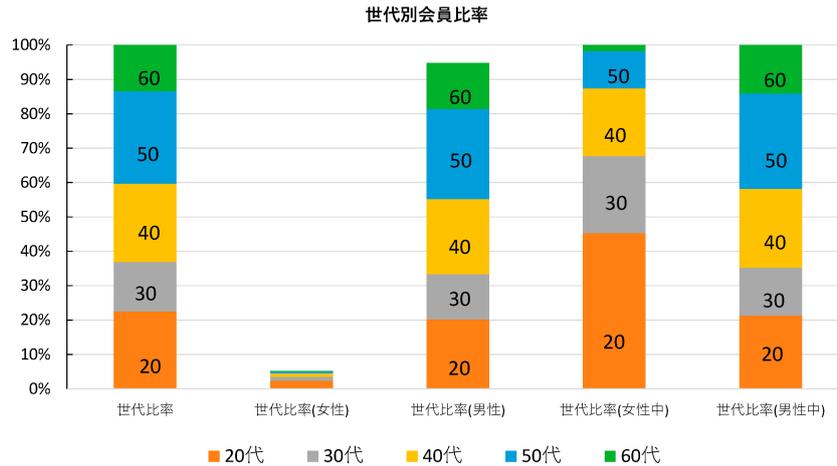


図4 金属学会の世代別会員比率(2017年). 左から;全員の世代比率, 全会員中女性会員の比率と各世代比率, 全会員中男性会員の比率と各世代比率, 女性会員のみの世代比率, 男性会員のみの世代比率. (オンラインカラー)

続きます。20代は40代と同程度ですが、約8割が学生会員です。左から2番目の極端に低い棒グラフは全会員に占める女性会員の比率で、5.2%でした。右側の2つ、男女別の世代比率をみると、女性のみの世代比率は男性のそれとは対称的に20代が多いのですが、これは30代以上、つまり正員の女性会員数が少ないためです。すなわち、このまま推移しますと、世代交代に伴い、会員数は減少の一途をたどりま。男女問わず、若い世代も魅力を感じる分野であり学会であることが重要です。2017年の女性会員の割合は、学生会員が10.5%、正員は4%、2020年はそれぞれ12%と5%でした。

2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の一つに、「ジェンダー平等」があります。今、世界の潮流は、様々な歪さを抱えながらもLGBTQ(性的少数者)を含むジェンダー平等、そしてダイバーシティ&インクルージョン(D&I)へと視座を上げつつあります。ジェンダーギャップ指数120位の日本でも、東京オリンピックおよびパラリンピック開催を機に、ジェンダー平等やD&Iの機運がようやく高

まりつつあります。近い将来、両学会での男女共同参画やダイバーシティが当たり前になり、本委員会がその役目を終える日が来るのを心待ちにしています。

最後にもう一つ、「女性会員のつどい」に関し、2019年の岡山大学での秋期大会では、「女性会員のつどい」にて、猿橋賞を受賞された梅津理恵氏のお祝いの会がありました⁽⁴⁾。その後はCOVID-19の流行のため、3期続けてやむなく中止となりましたが、2021年秋期講演大会では、大会期間中の9月17日(金)に、皆様のご理解とご協力の下、オンライン形式ながら4期ぶりの開催に至りました。

文 献

- (1) 三浦永理：まてりあ, **60**(2021), 439-440.
 - (2) 御手洗容子：まてりあ, **56**(2017), 116-120.
 - (3) 梅津理恵：まてりあ, **56**(2017), 711.
 - (4) 松岡由貴：まてりあ, **58**(2019), 524.
- (2021年8月3日受理)[doi:10.2320/materia.60.665]